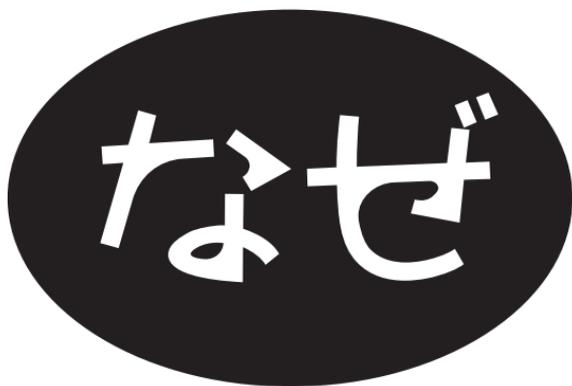


中学英語の



に答える本

Tsumiishi Toishi

積石 砥石

青山ライフ出版

はじめに

「三人称単数現在形のときは動詞にsを付けるように。」と学校の先生から教わった方は多いと思います。しかし、「なぜ動詞にsを付けなければならないのか」まで教えてくれる先生はどれくらいいるのでしょうか。この本は、教科書や参考書にはあまり書いていない「なぜ」を追求した本です。中学校英語の全範囲を網羅しているわけではありませんが、中学校で勉強していて「どうしてだろう」と思う点だけをピックアップしてみました。高校入試には「なぜ三単現のsが残ったのか説明しなさい。」という問題は出てきません。しかし、理由をしっかりと知っている人の方が、三単現のsのつけ忘れが少ないです。勉強は遠回りした方がいいです。皆様がこの本をきっかけに英語のなぜを探求していただけたら、著者としてそれ以上の喜びはありません。

目次

はじめに	3
1 10品詞と文の要素	6
2 名詞	14
3 代名詞	16
4 形容詞	24
5 動詞	26
6 助動詞	28
7 副詞	34
8 前置詞	36
9 第一助動詞の do	38
10 現在完了がなぜ have+ 過去分詞なのか	40
11 時や条件を表す副詞節	44
12 主語+ 述語動詞+ 目的語 (人) + 目的語 (物) の書き換え	46
13 副詞的目的格	50
14 比較級 than のあとは	54
15 過去形が表すのは距離感	56
16 曜日と月の名前	58
あとがき	61

1 10品詞と文の要素

品詞と文の要素をごっちゃにしてしまう人が多いですが、別々の概念なのでしっかり区別しましょう。品詞とは単語そのものの性質による分類です。辞書に載っています。辞書で apple と調べたら、品詞は名詞であると書いてあります。また、単語によっては二つ以上の品詞があることがあります。

例)

Bob is a hard worker.

ボブは勤勉家（一生懸命に働く人）です。

【hard は形容詞。worker という名詞を修飾。】

Bob works hard.

ボブは一生懸命に働きます。

【hard は副詞。works という動詞を修飾。】

一方、文の要素とはその単語が文の中でどのような働きをするのかということに基づく分類です。「○○さんが△△を××する。」という一つの文の中で「○○さん」という部分は主語として働きます。辞書には文の要素は載っていません。

英語では一般的に品詞は以下の10個あるとされています（他の分類の仕方もあります）。